

1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

令和5年度の取り組みは以下のものであった。

- (1) テーマ：令和7年度実施に向けた、人間科学教育カリキュラムの再編作業。
- (2) 目的：人間科学教育科目の「人文科学」「社会科学」「自然科学」の3領域は、基本科目と展開科目から構成されており、体系的に学習できるカリキュラムを目指してきた。しかしながら、現在のカリキュラムは10年を経過しており、教養教育自体においては、「文理融合」を前提に、分野横断教育を基盤とした、新たなカリキュラムが必要であると認識される。
- (3) 期待する効果：したがって、現在開講している科目の見直しおよび時代の要請に応える科目の新設検討も視野に、今年度は本学の人間科学教育カリキュラムの改革・改善に着手することによって、カリキュラム運営を全学（部）で支える体制強化を図る。併せて、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとに、学修者本意の教育実現に寄与する。

令和6年度の取り組みについては、令和7年度実施に向けた人間科学教育カリキュラムの再編作業をさらに推進することとする。具体的には、①各学部における履修規定の確定、②カリキュラム編成に伴う科目名称の変更といった、細部の調整作業に取り組む。学部における改組等に伴う申請に必要な事項について不備がないように作業を進めることが肝要であると考えている。また、令和4年度実施の「データ・AIと社会」関連プログラム、および、令和5年度から実施した「アントレプレナー教育プログラム」の検証（履修者数・教育効果等）の必要性を認識している。

2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

- (1) テーマ：令和7年度実施に向けた、人間科学教育カリキュラムの再編作業の継続。
- (2) 目的：各学部における履修規定・科目名称の変更等を精査し、令和7年度実施に向けた準備を完了するとともに、文理融合教育・分野横断教育を基盤としたカリキュラムの整備に向けた準備作業の方策について議論をしてゆく。
- (3) 期待する効果：令和5年度から開始したカリキュラムの編成作業は、令和7年度実施をもって完了したものではない。再編は途に就いたばかりであり、既存科目を再配置した14のテーマ毎の教育効果の検証によって、今後の人間科学教育カリキュラムの在り方を模索し続ける必要性を絶えず認識してゆくことが期待される。併せて、昨年度同様、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとに、学修者本意の教育実現に寄与する。

3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

(2) その他研修会等：

※ (1) 以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- ・ 実施日時・場所：2月～3月に京都産業大学において（対面またはオンライン実施）
- ・ 実施内容：新年度に向けて以下の授業の担当者会議を実施予定である
 - ① 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベル担当者会議（授業運営、意見交換、自己点検評価等）
 - ② 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル担当者会議（授業運営、意見交換、自己点検評価等）

※この内容は本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。